

八戸市史だより

第 13 号

発行日 平成 21 年 5 月 25 日

八戸市史編纂室

考古資料編 & 近現代資料編

市史刊行物続々発刊!!

市史編纂室より『はちのへ市史研究第7号』、新編八戸市史『考古資料編』、『近現代資料編』の3巻を続けて発刊します。

考古資料編は、原始・古代・中世部会が初めて送り出す資料編です。八戸を五地区に分けて、各地区の遺跡を時代順に紹介していきます。オールカラー印刷で写真や図版を豊富に掲載した、ビジュアルな資料編となりました。また、付録として、八戸市内の遺跡の分布が一望できる「八戸市遺跡図」を大判カラーで添付しました。この本や地図を開き、身近な遺跡を訪ねながら、いにしへの八戸へ想いを馳せてみませんか。

近現代資料編は、前巻に続いて昭和4年の八戸市誕生から、戦争とその後の混乱期を乗り越え、復興と社会資本の整備が進んでいった昭和30年代までの時代を対象として、市政の動向、八戸港の開港と整備、教育、文化、戦中・戦後の市民生活など、多くの資料を紹介しています。くしくも市制施行80周年を迎えた



記念すべきこの年に、相応しい一冊となっています。新編八戸市史は両巻共に定価 5,600 円、B 5 版ハードカバー、外箱入りです。

はちのへ市史研究第7号は、市史編纂関係者の研究成果や活動の報告として、今回も近世・近現代・自然・民俗、多岐にわたる論文・資料紹介・随想を掲載しました。こちらは定価 1,700 円です。**はちのへ市史研究**は5月末より、**近現代資料編**は6月上旬より、**考古資料編**は7月より、市内各書店にて発売予定です。

各巻目次

考古資料編 (定価5,600円 7月発刊予定)

第1章 新井田川下流地域 / 第2章 馬淵川下流地域
第3章 鮫・白銀地域 / 第4章 市川・高館地域 / 第5章 南郷区

近現代資料編 (定価5,600円 6月上旬発刊)

第1章 八戸市の誕生 / 第2章 海からの社会資本整備
第3章 海から発展する産業 / 第4章 郷土の光
第5章 戦争の中の暮らし / 第6章 戦後の暮らしと占領改革

はちのへ市史研究第7号 (定価1,700円 5月末発刊)

研究 戦後における八戸市地域を中心とする北奥羽開発構想について
民俗学からみた祭祀供養 / 八戸市南郷区の植物相の外観
明治期における八戸三社大祭の風景
資料紹介 『新編文林全集』巻之三と南部直政の教養
市史随想 <はちのへ・るねっさんず>の時代 / 暦あれこれ
種差海岸と国立公園 その他、各部会・市史編纂室活動報告



種差海岸の昔と今が表紙・裏表紙です。

ちょっと一息 漢字クイズ

(1)読み【ヒント】

馬を にかける。
擲

(2)読み【ヒント】

別名：春告魚
鯨

(3)読み【ヒント】

引き。
鬪 当たる。

(4)意味

畢竟

【ヒント】

「ひっきょう」と読む。
畢竟するに...

部会短信

(平成21年1月～5月)

原始・古代・中世部会

平成21年を迎えて『考古資料編』の校正作業が佳境に入りました。八戸市史としては、平成16年度刊行の『自然編』に続く2巻目のカラー印刷となります。「合掌土偶」が国宝に答申されるなど話題性もある『考古資料編』は、まもなく刊行されます。また、『中世資料編』は、3月の部会会議において掲載すべき資料のリストが作成されました。これからは、平成22年度執筆に向けて、資料内容の検討をまいります。

近世部会

近世部会では、『近世資料編』の執筆が3月にはひとまず終わり、現在は編集作業に入っています。提出された原稿は、予定よりも若干多くなってしまったため、想定されるページ数をにらみながら、資料の取捨選択の作業を行っていくこととなります。資料編3の刊行は23年3月末予定です。また、いよいよ『通史編』の執筆年度(22年度)も迫ってきていますので、4月の編纂委員会定まった装丁や編集方針を受け、本格的な検討を開始します。

近現代部会

近・現代部会では、『近現代資料編』の刊行を終え、22年3月末刊行予定の『資料編』の編集作業へと入っています。昭和後期を取り上げる『資料編』の次は、『テーマ別資料編』となります。これが、資料編としては最後の刊行です。『テーマ別資料編』では、「都市計画」と「戦争」という2つのテーマに取り組み、21年度内の執筆に向け資料収集を進めています。後述の戦争遺跡調査もこの一環です。こちらは23年3月末、二分冊での刊行予定です。

自然・民俗・文化財部会

今年度刊行の民俗班は、『民俗編』の原稿編集作業の大詰めを迎えています。レイアウトに合わせた原稿の編集、掲載写真の精査、口絵候補の選定などの作業を、7月中の入札を目標に進めています。オールカラー版となるので、写真・図・イラストは約500点となり、目で見て楽しめる本を目指します。文化財班は、今年度は『(仮称)文化財編』の執筆の年となります。5月の会議で項目案を確定し、レイアウトに合わせた原稿執筆にとりかかります。印刷は23年度となり、写真を多用した八戸市のビジュアルガイドブック的な本となる予定です。

編纂室カレンダー

二十一年一月～五月

- | | |
|--------|--|
| 1 / 24 | 自然・民俗・文化財部会文化財班会議
近・現代部会テーマ別資料編戦争編会議 |
| 2 / 24 | 収集資料整理(木幡家文書) |
| 3 / 8 | 近世部会近世資料編 執筆者会議 |
| 3 / 22 | 原始・古代・中世部会中世班会議 |
| 4 / 26 | 近・現代部会近現代資料編 執筆者会議 |
| 4 / 27 | 市史編纂委員会 |
| 5 / 9 | 第1回市内戦争遺跡調査 |
| 5 / 20 | 市史編集委員会 |
| 5 / 23 | 自然・民俗・文化財部会文化財班会議 |
| 5 / 24 | 近・現代部会近現代資料編 執筆者会議
近・現代部会テーマ別資料編戦争編会議 |
| 5 / 26 | 第2回市内戦争遺跡調査 |

漢字クイズの答え

- (1)「せり」
- (2)「にしん」
- (3)「くじ」
- (4) 結局のところ

発行・編集

八戸市史編纂室
〒031-0022
八戸市糠塚字下道 2-1
電話&FAX 0178-73-3234



カレンダーより

4月27日に開催された市史編纂委員会では、執筆年度が迫っている『通史編』の、装丁や編集の進め方について話し合われました。議論の結果、手にとって読みやすいサイズとして、A5版のソフトカバーの装丁で、ページ数は500程度を目途にすることが決定されました。

5月9日には、近現代部会が森林組合の協力の元、最初の市内戦争遺跡調査を実施。太平洋戦争の最中、市内是川や島守の山中に築かれたトーチカと呼ばれる防陣地や防空壕などの戦争遺跡の内、8カ所の位置や現状を確認しました。今後も調査を継続予定です。

トーチカの様子

